

荒尾地区保護司会 保護司

高尾洋子さん



たかお・ようこ 1938年生まれ、倉懸東在住。趣味はコーラス。「ここまでやってこれたのは、家族や知人など周りの皆さんのおかげ。本当にありがたいです」

「おしゃべりが好き！おせっかいも好き！」と、軽快な調子で話すのは保護司の高尾洋子さんです。保護司は面談などを通して、犯罪や非行に走ってしまった人の更生を支援するボランティアです。

自他共に認める話好きな高尾さんが家族で営む薬局には会話目当てに買い物に来てくれる人も大勢いました。21年前に保護司になってからは、得意のおしゃべりを生かし、雑談しながら、子どもたちに寄り添ってきました。

「彼らの話を聞くことが一番。アドバイスなんて必要ないんですよ」限られた時間の中で話を聞き、犯罪に手を染めてしまった理由を探し出す。そのことが最も難しいといえます。少しでもその理由に近づくために心理学の本を読みあさったり、先輩の保護司に相談したりと、がむしゃらに駆け抜けてきました。

「子どもたちから教えられることも多いんです」さまざまな人と接するうちに、一歩引いて、周りを見て、いろいろなアプローチができるようになり

ました。一方的に思いを伝えるだけでは何も始まらないことに気づかされたそうです。

立ち直った子から「結婚する」「子どもが生まれる」という報告をもらうことが何よりうれしいと、ほほ笑む高尾さん。一方で、再犯してしまう人も少なくありません。しかし、何度裏切られても「やっぱり人が好き」と、優しいまなざしを見せます。どんなことがあっても彼らを信じているのです。

「人の成長には家庭での生活が不可欠」と、高尾さんは感じています。愛情を十分に受け取ることでできない人も多い現代。「いただきますをみんなで言える環境をつくってほしい」と、訴えます。

ことし11月、高尾さんは保護司の定年を迎えます。「定年しても、子どもたちとの絆は変わりません。いつでも気軽に声をかけてほしい」と、エールを送ります。今後は今まで以上に地域の活動に力を入れていきたいという高尾さん。おしゃべりとおせっかいを武器に、これからは地域を盛り上げていってくれます。



1. ことし5月、保護司としての活躍が認められ、藍綬（らんじゅ）褒章を受章しました。2. 更生した人たちが働いて作ったものを販売する活動も行っています。3. 地域のいきいきサロンには立ち上げのときから関わってきました。ご飯を食べたり、手芸をしたりしています。4. コーラスサークル桜ゆりかご会に所属している高尾さん（左）。特に休憩中のおしゃべりが楽しみだそうです。